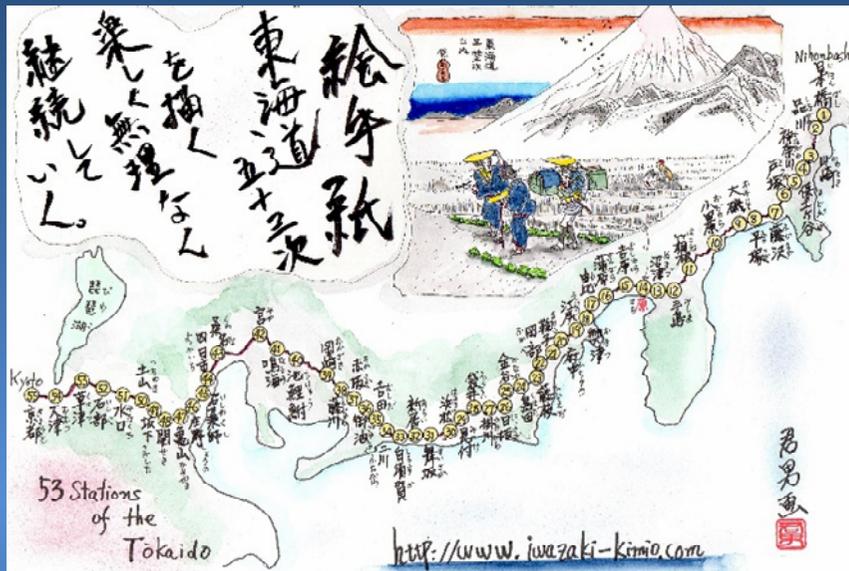


ペン絵手紙・東海道五十三次を描く

10

◆水彩紙：アルシュ水彩紙（フランス製）100mm x 148mm 極細300g/m²ナチュラルホワイト使用、特徴は非常に滑らかな肌目できめ細かくペン(STAEDTLERなど)では描きやすい。



・東海道五十三次 日本橋（起点）～
京都（三条大橋）までの55作品。
53の宿場を透明水彩画で描く。



・京都・三条大橋
（終着地点）

◆55作品を描いた感想！

東海道五十三次を透明水彩画で楽しく「ハガキサイズ」で描く旅が約半年今日で終了です、版画では描き切れない、“光と影”、そしてペンを使った繊細な描き方、淡い透明水彩絵の具を使い、水の量による明度の変化を工夫しながら描きました。
自分なりに、楽しく描き色々勉強もさせて頂きました、歌川広重さんに感謝です。
全体を通して感じたことは、東海道五十三次55作品の構図の素晴らしさが目立ちます。

◆歌川広重（1797年～1858年10月12日）：江戸時代末期の浮世絵師

ペン水彩画URL:<http://www.iwazaki-kimio.com>

2017(H29)年

ペン絵手紙・東海道五十三次を描く

11

◆水彩紙：アルシュ水彩紙（フランス製）100mm x 148mm 極細300g/m²ナチュラルホワイト使用、特徴は非常に滑らかな肌目できめ細かくペン(STAEDTLERなど)では描きやすい。

◆55作品の構図の特徴

1)富士山が描かれている川崎、箱根、原、吉原、由井、舞坂、など。



2)雨、雪、風、霧など自然なものを題材にしている、大磯、三島、蒲原、四日市、庄野、亀山など。



3)東海道の難所である、山越え、川越え、小田原、興津、府中、岡部、島田、金谷など。



4)日常の出来事を表している、日本橋、戸塚、丸子、藤枝、袋井、浜松、御油、赤坂、池鯉鮒、宮、関、水口、草津、大津など。



◆歌川広重（1797年～1858年10月12日）：江戸時代末期の浮世絵師

ペン水彩画URL:<http://www.iwazaki-kimio.com>

2017(H29)年